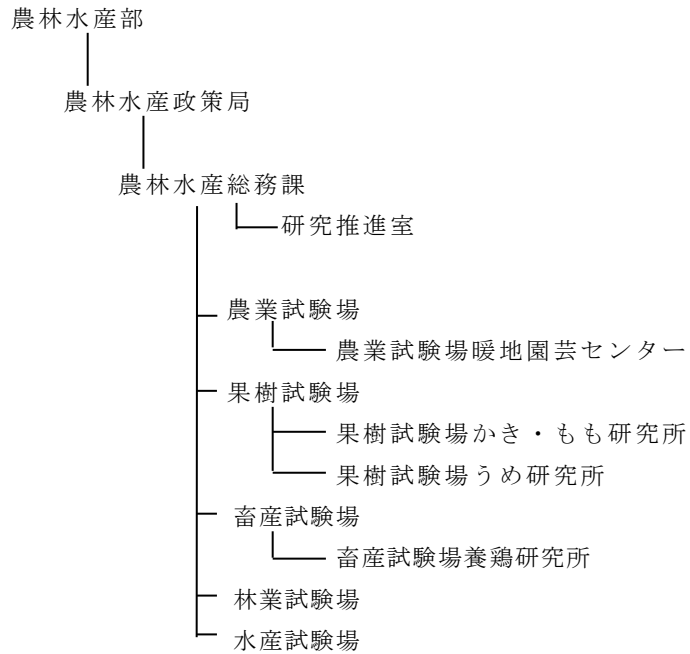


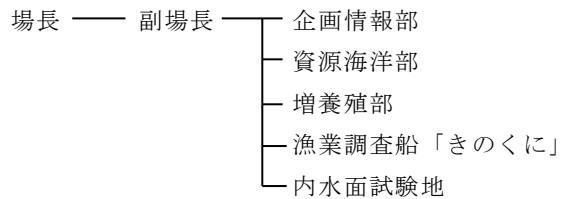
水産試験場概要

I 機構と組織

1. 機構



2. 内部組織



3. 職員の構成

区 分	行政職	研究職	計
場長		1	1
副場長		1	1
企画情報部		2	2
資源海洋部		5	5
増養殖部	1	4	5
漁業調査船	7		7
内水面試験地		4	4
	8	17	25

4. 職員と事務分担

部名	職名	氏名	事務分担
	場 長	奥山 芳生	場の総合企画及び総括に関すること
	副場長	樫山 晃晴	場長の補佐, 人事, 服務, 庁舎の管理, 予算の総括に関すること
企画情報部	部 長	諏訪 剛	部の総括・企画調整, 流通対策, 庶務, 成果の公表・普及に関すること
	研究員	大野 弘貴	藻場造成(ホンダワラ類)・藻場モニタリング調査に関すること
資源海洋部	部 長	木下 浩樹	部の総括・企画調整, 漁海況速報に関すること
	主任研究員	高橋 芳明	海洋観測, 資源管理・回復推進, まき網漁業に関すること
	主任研究員	安江 尚孝	漁業資源・漁場調査と情報提供(総括), 船びき網漁業, 卵稚仔調査に関すること
	主査研究員	山根 弘士	高度回遊性魚類(カツオ・マグロ類), カツオマップに関すること
	副主査研究員	小川 満也	漁業資源・漁場情報と情報提供(イサキ, ブリ等), イセエビに関すること
増養殖部	部 長	葦澤 崇博	部の総括・企画調整, 飼育施設等の保守管理に関すること
	主 査	佐々木明生	調査研究の補助, 船舶「なぎ丸」・海上筏の管理に関すること
	主査研究員	内田 廉	藻場造成(コンブ目), スマの種苗生産・養殖, 介類増養殖に関すること
	副主査研究員	武田 崇史	魚類種苗生産・養殖, 栽培漁業に関すること
	副主査研究員	賀集 健太	水産衛生対策, 漁場環境(赤潮・貝毒), 漁場環境(生物モニタリング)に関すること
漁業調査船 (きのくに)	船 長	住谷 勝志	船舶の管理・運航, 海洋観測調査, 飼育施設等の保守管理に関すること
	機関長	岸 幸一	〃
	主査機関士	堀 浩一	〃
	副主査航海士	西 博	〃
	副主査機関士	濱口 尚信	〃
	副主査航海士	半田 憲生	〃
	副主査機関士	平見 謹一	〃
内水面試験地	主査研究員	内海 遼一	水産衛生対策, アユ冷水病対策に関すること
	副主査研究員	北村 章博	ウナギ資源に関すること
	副主査研究員	平野 育生	内水面漁業・養殖技術指導に関すること
	研究員	松尾 怜	アユ資源に関すること

Ⅱ 業務

1. 試験研究項目一覧

単位（千円）

事業名又は課題名	財源内訳				
	予算額	国庫	使用料・手数料	諸収入	一般財源
水産試験場費	71,328	29,186	1,788		40,354
水産試験場運営	18,403				18,403
内水面試験地運営	3,915		1,788		2,127
調査船運航	7,314				7,314
シロアマダイの種苗量産技術の開発	2,128				2,128
漁業資源・漁場調査と情報提供	18,265	18,265			
マルアジの脂質含量と鮮度の研究	1,528				1,528
アカモク藻場造成技術の開発	2,003				2,003
水産衛生対策	1,460	730			730
魚類病害微生物の定量的検出技術の開発	824				824
海域の栄養塩環境が二枚貝生産に及ぼす影響調査	1,000	1,000			
アユ資源量に関する基礎調査	465				465
抗菌剤を使用しないアユ冷水病防除技術の開発 ～早期実用化への試み～	2,237				2,237
シラスウナギ来遊量調査	500	500			
環境収容力推定手法開発	1,266	1,266			
主要藻場モニタリング調査	372				372
高度回遊性魚類調査（マグロ）	7,425	7,425			
低塩分海水を用いたモクズガニ種苗生産技術の開発	1,293				1,293
新規漁場開発と資源調査	930				930
水産業振興費	2,417				2,417
資源管理・回復推進（資源管理課）	1,565				1,565
漁場環境保全等モニタリング（資源管理課）	100				100
栽培漁業推進（水産振興課）	752				752
漁業調整費	54				54
漁業・遊漁調整（資源管理課）	54				54
漁業構造改善費	754				754
漁場効果調査（水産振興課）	754				754
	74,553	29,186	1,788		43,579

Ⅲ 業績

1. 外部に発表した事項

(1) 一般雑誌 なし

(2) 書籍 なし

(3) 学会等の発表

題 名	発 表 者	発 表 誌
・ 紀伊水道におけるクマエビの卵巣の組織学的観察に基づく成熟と産卵期	武田 崇史 高橋 芳明 安江 尚孝	水産増殖
・ 和歌山県沿岸に設置された表層型浮魚礁周辺におけるカツオの移動，食性，肥満度および成熟	山根 弘士 安江 尚孝 清藤 秀理	日本水産学会誌

(4) 委託事業報告書等刊行物

1) 漁海況速報（週刊）

2) 人工衛星画像海況速報（2022-No.33～72、2023-No.1～13）

(5) 農林水産省研究会等資料

題 名	発 表 者	発 表 誌
・ 2022 年におけるカツオひき縄春漁の経過	山根 弘士	令和 4 年度水産資源評価・調査推進事業第 1 回カツオ SU 推進検討会資料
・ 2022 年のカツオ漁況について	山根 弘士	令和 4 年度水産資源評価・調査推進事業第 3 回カツオ SU 推進検討会資料
・ 和歌山県表層型浮魚礁におけるキハダ若齢魚の食性	山根 弘士 安江 尚孝	令和 4 年度太平洋中・南ブロック資源海洋研究会
・ 令和 4 年度中央ブロック資源評価および第 1 回太平洋イワシ，アジ，サバ等長期漁海況予報について	安江 尚孝 高橋 芳明	平成 4 年度中央ブロック資源評価会議および第 1 回太平洋イワシ，アジ，サバ等長期漁海況予報会議資料
・ 令和 4 年度中央ブロック第 2 回太平洋イワシ，アジ，サバ等の長期漁海況予報について	安江 尚孝 高橋 芳明	平成 4 年度中央ブロック第 2 回太平洋イワシ，アジ，サバ等長期漁海況予報会議，資源評価調査担当者会議資料
・ 紀伊水道の栄養塩環境が二枚貝生産に及ぼす影響解明	葦澤 崇博 賀集 健太 武田 崇史	令和 4 年度漁場環境改善推進事業「栄養塩の水産資源の及ぼす影響の調査」第 1 回事業検討会資料
・ 紀伊水道の栄養塩環境が二枚貝生産に及ぼす影響解明	葦澤 崇博 賀集 健太	令和 4 年度漁場環境改善推進事業「栄養塩の水産資源に及ぼす影響の調査」のうち「Ⅰ．瀬戸内海」第 2 回事業検討会資料
・ 2022 年にアユ養殖場で発生したへい死について	内海 遼一	令和 4 年度全国湖沼河川養殖研究会アユの疾病研究部会資料
・ 和歌山県におけるニホンウナギの生息状況及び生息環境の把握	北村 章博	令和 4 年環境収容力推定手法開発事業ウナギ課題計画検討会資料
・ 和歌山県におけるニホンウナギの生息状況及び生息環	北村 章博	令和 4 年環境収容力推定手法開発

(6)新聞掲載

記事見出し（内容）	掲載年月日	掲載誌名
・ 2年連続刈り取り断念 串本の特産品「姫ひじき」生育不良 「黒潮大蛇行」影響か	2022. 4. 16	紀伊民報
・ 県水試 生き餌使わずに育成 コスト削減へ 高級魚スマの種苗生産	2022. 5. 11	紀伊民報
・ 毛糸巻いたレンガで成果 県水産試験場 ヒジキの人工種苗育成	2022. 5. 20	わかやま新報
・ 生存率アップに成果 県水産試験場 シロアマダイ稚魚を1万尾放流	2022. 6. 19	紀伊民報
・ 旬のおいしさ知って アジ・サバ 脂質基準設け出荷 ブラ	2022. 6. 30	紀伊民報
ンド名「特選 紀和美」		
・ 脂の乗り 極みの紀和美 マアジやマサバ、ブランド化	2022. 7. 7	毎日新聞
・ 農林水産の研究発表 2月、県の各試験場	2023. 2. 5	紀伊民報

(7)水産試験場成果発表会

実施日

令和5年2月13日

場 所

水産試験場 2階 学習ホール

内 容（発表題目、発表者）

・ 主要藻場モニタリング調査	企画情報部	諏訪	剛
・ マルアジの脂質含量と鮮度の研究 ～特選出荷に向けて～	資源海洋部	高橋	芳明
・ 低塩分海水を用いたモクズガニ種苗生産技術の開発	増養殖部	武田	崇史
・ ニホンウナギに好適な河川環境を解明する調査研究	内水面試験地	北村	章博

2. 研修生・見学者の受け入れ

(1)研修生の受け入れ

1)インターンシップ

- ・ 大学生インターンシップ（3年生1名） 9月12日～16日